

令和7年度 西海市立西海中学校 「学校教育の基本方針」（学校経営方針）

西海市立西海中学校
校長 小西 清明

1 西海市教育方針

西海市教育委員会は、協働の精神を基盤として、心身ともに健康な市民の育成を期する。特に豊かな自然や文化を愛し、生涯にわたり学び続けることができる教育の里づくりに努める。

2 西海市教育重点政策

- 生きる力をはぐくむ学校教育の実現
- いつでもどこでも学べる生涯学習の推進
- 市民総ぐるみで取り組む教育力の向上
- 安心して学べる教育環境の構築
- 地域を支える文化・芸術、スポーツの振興



1 西海中学校「学校教育方針」

- (1) 日本国憲法、教育基本法、学校教育法、中学校学習指導要領などの関係法令及び、長崎県・西海市の教育方針並びに教育振興基本計画に基づき、協働の精神を基盤として、職員が英知を結集し、生徒とのふれ合いと家庭及び地域との連携を図りながら、生徒・保護者・地域の願い信頼に応える教育活動を推進する。
- (2) 「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」の理念の下、学校生活及び各種の取組を通して、学校・学年・学級への所属感と自己肯定感を高め、今の生活を意義あるものにさせるとともに、将来を生き抜くための礎を築かせる。
- (3) 知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成を目指し、活力ある学校の創造と地域に愛される学校づくりに努める。

2 校訓 「自主」 「至誠」 「健康」

3 学校教育目標 **自ら拓く 心豊かで たくましい生徒の育成**

【めざす学校像】～感動ある学校～

自主：希望があり、ふれ合いに充ちた活気ある学校

至誠：規律があり、環境が整った美しい学校

信頼があり、家庭や地域社会と協働する学校

健康：夢があり、伝統と校風を創造する学校

【めざす生徒像】～自主的で自立心ある生徒～

自主：自ら求めて学び、粘り強く継続する生徒

社会性を身に付け、自立心をもった生徒

至誠：思いを受け止め、誠意をもって実践する生徒

健康：自らに誇りと責任をもち、もてる力で貢献する生徒

【めざす職員像】～誠実で教育愛に満ちた職員～

自主：向上心をもち、自己研鑽に励む職員

至誠：深い教育愛をもち、感じて動き思いを受け止め、誠意で返す職員

健康：和を大切にし、協力・連携して教育活動を推進する職員

4 令和7年度スローガン

「 西海 Spirits ～つながる・広がる～」

学校は「組織」である。一人ひとりがアイデアを出し合い、共通理解をし、認め合うことで自主性が生まれ、学級・学年・学校という集団（組織）は進化・発展していくと信ずる。『主体性を育む教育』『誰一人取り残さない教育』のために、「生徒同士」「教職員同士」「生徒と教職員」「教職員と保護者」「生徒・保護者と地域」「生徒・保護者・教職員と関係機関」など、様々な角度から「ひと」や「もの」、「機関」をつなぎ、個々の、そして集団（組織）の可能性を広げていく。

5 重点目標及び具体的方策

創立14年目を迎えた本校の伝統・校風を生かしながら、未来の社会状況を見通す目をもって、学校教育目標の実現を目指す。

（１）「チーム担任制」による『組織力を高める教育』の推進

① 「チーム担任制」の趣旨・目的

○生徒たちには・・・、

- ・ 「自主的・自治的な活動」（生徒たち自身の手による学級【学年・学校】づくり）を意識させる。
- ・ 「組織力」「コミュニケーション力」「人間関係を築いていく力」を養う。
- ・ 学級委員の活躍の場が増えることが予想される。

※ 学級委員をサポートする生徒（次のリーダー）の育成や「班長を中心とした活動」、学級内の協力体制の構築等、各学年に応じて工夫する。

○教師には・・・、

- ・ 学級を見守り、サポートをし、指導・支援・助言する。
 - ・ 朝や帰りの短学活、道徳、学活等、効果的な研修の機会となる。
- ※ 特に「道徳」については、隣の学級でも同じ授業を行うことで、
- ◇ 教材研究を行う時間的余裕が生まれる。
 - ◇ 学級による反応の違いを把握したり、発問や展開の工夫をしたり等、教師の研修の場につなげる。
 - ◇ 他の教員の授業を参観することも可能となる。（研修の場が広がる。）

② 「チーム担任制」の具体

- 学年主任を中心としながら、3～4名の学年所属職員が1週間を1単位（基本）として、学級担任の役割を果たしながら、ローテーションを組む。

ただし、1年生は入学直後の生徒及び保護者の不安を解消するため、入学後もしばらくは担任を固定する。（チーム担任制への移行時期は、体育大会後、中総体後、2学期から等、1学年に任せる。）

- 朝や帰りの短学活、係活動の仕事、そうじの仕方、給食配膳、当番の仕事、時間割や諸連絡を伝えるための方法（ツール）、生活ノートの有無（確認方法）等を学年内で統一する。

- その週に、口組の担任は誰か（朝や帰りの短学活に行くのは誰か）を可視化する。

※ 学年の白板を活用する（掲示する）ことで情報伝達や提出物の確認をスムーズに。

- 提出物の提出状況が把握できるよう、学年で記録する。
- 諸課題や諸事案についても、学年所属職員で情報共有を行い、対応していく。
- 学年集会や合同帰りの会を効果的に活用する。
- これまで、学年主任が行っていた安心メールや目視による欠席及び遅刻等の確認は、学年のローテーションによってその役割を果たす。
- これまでの、担任による「学級だより」ではなく、チームによる「学年だより」を発行する。（「学年だより」発行は必須ではなく、教師に軽重が出ないよう工夫する。）
- 教育相談や三者面談等、学年で分担する。

※ 特に3年生は、担当する高校【生徒視点からすると受験（受検）する高校】ごとで分担しても可。

- 通知表や指導要録の所見は、学年で分担する。
- 保護者等からの相談連絡等は、学年主任または学年所属の教師で対応する。

※1 上記以外、学年経営については学年色を出しても可。

※2 新3年生については、令和6年度の途中から「チーム担任制」を導入している。この体制を全学年に広げていく。

※3 「チーム担任制」を全学年で本格的に実施するのは、本校にとって初めての試みとなる。実際に動き出した際、課題等にはまずは学年のチームで対応し、運営委員会等で他学年や管理職にも情報共有を行う。→「チーム西海中」として対応していく。

（2）自ら拓く生徒の育成（主体的・協同的な学び）※学力向上

- ① 全国・県・市学力調査及び学校評価の結果に基づく全教職員による実践を行う。（「学力向上アクションプラン」の実践）

- 「学力向上アクションプラン」（令和7年2月作成）の3つの方策 ※方策8つ→3つへ

方策Ⅰ 授業づくり

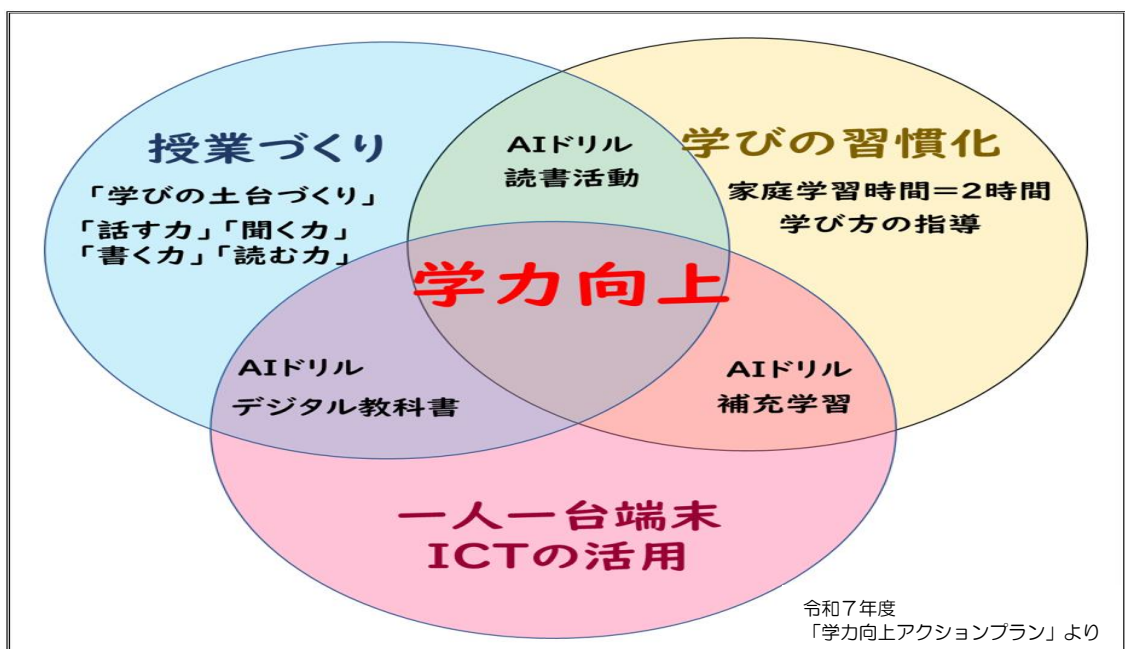
- ・「学びの土台づくり」の視点をもった授業づくり
- ・「話す力」「聞く力」「書く力」「読む力」に重点を置いた授業展開

方策Ⅱ 学びの習慣化

- ・毎日の「家庭学習時間＝2時間」の指導
- ・AIドリル（e-ライブラリ）を用いた自主学習の推進
- ・学び方の指導

方策Ⅲ 「一人一台端末」、ICTの活用

- ・全教育活動におけるクロームブックの活用
- ・AIドリル（e-ライブラリ）を用いた問題演習・補充学習の活用



- 「学校評価」の課題克服に向けて ※令和6年9月20日「学校だより第8号」より

(1) AIドリル（e-ライブラリ）を用いた問題演習・補充学習の活用

※e-ライブラリによる「宿題での活用」、「定期テストでの活用」→家庭学習での活用へ

(2) 「学び方の指導」（主体的な家庭学習の支援）の実践

※各教科による「学び方」「家庭学習の仕方」の指導（特に単元テスト前、定期テスト前）

(3) 毎日の「家庭学習時間＝2時間」の指導

※保護者の皆さまの、ご家庭での励ましの言葉をお願いします。

※自学ノート、各教科での宿題の提示・確認・指導

(4) 読書活動のさらなる推奨

※読解力、想像力、思考力、語彙力、文章力、感性、情報収集力などの向上へ

※学校図書館司書とのさらなる連携

- 「西海市学力向上5アッププロジェクト」における本校の取組

【1】 学びに向かうモチベーションアップ

- ① 各学校における校内研究の充実
- ② メタバースを活用した放課後オンライン学習会の実施
→ 中1英語における受講推進（推奨） ※5月下旬に案内文到着予定
- ③ 学びの土台となる基本的な生活習慣の徹底

→ 「メディアコントロール週間」の実施（小中連携） ※継続

【2】ICT活用・教育DXのレベルアップ

- ① WebQUを活用した学級づくり
- ② 新型学校ホームページや保護者連絡ツールの導入
→ 早急に準備（HP:6月～9月、teturu：9月）
- ③ 長崎総合科学大学との連携した取組

【3】教職員のスキルアップ

- ① 希望参加型の研修会の充実
- ② 次世代リーダー養成型研修会の開催
→ 初任研・若手研・中堅研の計画的な運営 ※継続
- ③ 大学教授等、専門家を講師に招いた研修会の開催

【4】英語力向上のチャレンジアップ

- ① 各地区で小中連携の取組を推進
→ 校区内小学校への「学力向上アクションプラン」の提示と共通実践推進
- ② 指導主事による研修会の開催及び授業づくり支援
→ 市教委担当者との連携及び情報共有 ※継続
- ③ 家庭学習における英語アプリの活用
→ 「duolingo」の本格的導入と積極的使用

【5】学校や地域からのボトムアップ

- ① 全教職員を対象としたアンケートの実施
- ② 学力向上推進会議・小中連携検討会議の開催
→ 「新・西海っ子の5つの習慣」の配布・指導と小中連携 ※継続
- ③ コミュニティ・スクールにおける学力向上の取組
→ 「令和8年度：準備期間、令和9年度：本格実施」への準備

○ 市教委『学力向上を目指して』の3つの実践

- ・ 「書く力をはじめとした表現する力の向上」
- ・ 「家庭学習の質と量の改善」
- ・ 「家庭学習時間の確保に向けた取組」（各家庭でのルール決め）

② 夢・志を育むキャリア教育を推進し、予測不能な未来を生き抜く力の育成を図る。

- 中学3年時の受験【受検】を意識した（させた）進路指導（「選択肢を広げる」意識）
- 自己実現につなげる系統的・組織的なキャリア教育の実践
- 「キャリア・パスポート」の活用をとおした、系統的な進路指導
- 3年間を見通した生徒・保護者への適切な進路に関する情報提供と啓発活動

③ 教育的ニーズ及び生徒・保護者の困り感を把握した特別支援教育を推進する。

- 特別支援教育＝「教育の原点」・・・生徒の特性等の正しい理解に即した支援を。
- 「通級指導教室」の開設→「OA室」の改修へ ※予算の関係で徐々に
- 特別支援教育コーディネーターを中心とした支援・指導の工夫・改善
- 学習支援員との効果的な連携等による個に応じた支援・指導
- 指導教諭や特別支援学校、適応指導教室、SC、SSW及び福祉機関等と連携
- 保護者との共通理解・連携（指導計画や支援計画を活用したPDCAに則った支援）

（３）心豊かな生徒の育成（思いやり）

- ① 積極的な生徒指導により信頼関係を構築し、基本的な生活習慣の定着を図る。
 - 朝や帰りの短学活、学級活動や生徒会活動の指導をとおした、自治的能力の醸成（生徒の一人ひとりの所属感や充実感、自己有用感の高揚）
 - 生徒自身によるトラブル解決やストレスへの対処ができるたくましい学級集団づくり
 - ※ 不登校生徒への対応→教育支援センター等の関係機関へつなげる。
定期的な面談・電話連絡・家庭訪問の実施
不登校生徒を増やさない【意図的な学級内の仲間づくり】
 - いじめや問題行動におけるチームとしての共通理解・共通実践
 - ルール（時間・服装・身なり）やマナー（あいさつ・ことば遣い・礼儀）などの基本的な生活習慣確立への指導
- ② 道徳の時間を要とする道徳教育を推進し、豊かな人間性を育成する。
 - 学年所属による、道徳の授業の実践（全内容項目の計画的な指導）
 - 全教育活動を見通した道徳的心情や判断力、実践意欲等の醸成
 - 掲示教育活動を通した、潤いのある環境づくり
- ③ 人権・平和教育を計画的に推進し、生命尊重や人権意識の高揚を図る。
 - 過去・現在・未来という、点と線への思考（歴史的背景、世界情勢、社会情勢等）
 - 年間を見通した人権・平和教育活動の計画・実践
 - 人権を尊重し、平和を愛し、自他を大切にする心の育成

（４）たくましい生徒の育成（自立心）

- ① 生徒会・学級活動等において主体的な活動を推進する。（自治能力の育成）
 - 「生徒会３モットー」を一人ひとりの生徒が意識して活動する場の設定。
 - 体育大会や西海祭等、生徒のアイデアを尊重した学校行事の企画・実践
 - 生徒会の一員であるという自覚と所属感の高揚（より良い校風の実現へ）
- ② 安全及び健康の保持増進、体力の向上を図る。
 - 感染症予防を意識した「生活習慣」の指導徹底
 - 給食指導を通した食育推進（望ましい食習慣の指導）
 - ※ ４校時担当者から学級の担当者への引き渡しを確実に。
 - ※ 給食準備・返却は、生徒の自治活動を促す。（学級の担当者は速やかに学級へ）
 - 避難訓練による事故の未然防止に対する意識・実践力の高揚
 - 校内の施設・設備や通学路の定期的な安全点検
- ③ 体験的な活動を意図的に設定する。
 - 社会の一員として貢献する意欲の高揚

- 社会とのつながりやボランティア活動を重視する活動
- 地域人材の活用や関係機関との連携による学習内容の工夫

(5) 西海中学校職員として(チーム西海中)※働き方改革含む

- ① タイムマネジメントを実践しながら、働きやすい環境を構築する。
 - C4th「連絡掲示板」「職員会議」等の機能の有効活用
 - ※ 基本…職員朝会：なし、連絡会：木曜日のみ
 - ※ 出張・外勤・年休・特休・振休等→速やかにC4thへ入力
 - ※ 「文書連絡」「個人連絡」「連絡掲示板」は、毎日必ず1回は確認する。
 - 超過勤務時間80時間超過「0」へ(ライフ・ワーク・バランスを考えた働き方改革の推進)
 - ※ 毎週水曜日「(全員)定時退庁日」と週に一回の「(個人設定)定時退庁日」の実施
 - 開錠時間 = 7:15前後(生徒玄関は7:30前後開錠)
 - 施錠時間 = 部活動終了後30分後
 - 部活動の地域移行へのスムーズな移行
 - ※ 市教委(社会教育課)や校長会との連携
 - ※ 今年度から女子バスケットボール部が拠点校へ
 - ※ 今年度も、コーチの依頼や部活動指導員の配置を継続
 - 計画的な年休取得と休みやすい環境づくり(お互い様の精神で)
 - ◇ 市費職員：完全消化
 - ◇ 県費負担職員：15日消化を目標に計画的に取得
 - ◇ リフレッシュ休暇対象職員：本年度中に取得するよう計画を。
- ② 校内研修や各種研修会(経年研修)に積極的に関わり、教職員としての資質向上を図る。
 - 校内研修及び各種研修会への積極的参加(自らのステージを認識)
 - 研究授業や公開授業による「分かる授業」の実践
 - 令和5～6年度西海市研究委託「学力向上」(学びの共同体づくり)
- ③ コンプライアンス意識を高め、綱紀の保持・不祥事の根絶を推し進める。
 - 管理職：教職員を取り巻く状況の発信(「コンプライアンス意識」の高揚を)
 - 飲酒運転・金銭問題・ハラスメント・異性問題・情報漏洩・体罰の根絶等の厳守
 - 教育公務員としての自覚(守秘義務、ことばや文書・データの管理の徹底)

☆地域・保護者との連携

- 各種便り、通信を適宜発行し、学校教育や家庭教育の連携に努める。
- 学校ホームページの更新を定期的に行う。
- 「安心メール」の活用により、迅速で正確な情報発信や連絡に努める。